

令和2年1月定例教育委員会会議録

- 日 時 令和2年1月16日(木) 午後3時～午後3時30分
○場 所 櫛引庁舎 3階 教育委員室
○出席委員 教育長 布川 敦
1番 田中 芳昭(教育長職務代理者)
2番 清野 康子
3番 毛呂 光一
4番 齋藤 美緒
○欠席委員 なし

出席議事説明職員氏名

教育部長	石塚 健	参事兼藤沢周平記念館長	鈴木 晃
管理課長	吉泉 一郎	学校教育課長	尾形 圭一郎
学校教育課指導主幹	秋山 尚志	社会教育課長	佐藤 嘉男
社会教育課文化主幹	佐藤 尚子	社会教育課文化財主幹	三浦 裕美
中央公民館長	高橋 厚子	図書館長	松浦 幸子
スポーツ課長	齋藤 匠	スポーツ課主幹	阿部 三成
学校給食センター所長	小林 正雄	学校給食センター調整主幹	菅原 仁

出席事務局職員氏名 管理課庶務主査 本間 陽子

会議次第

1. 開会
2. 市民憲章唱和
3. 会議録署名委員の指名
4. 議事
日程第1 議第1号 鶴岡市立小学校及び中学校通学区域に関する規則の一部改正について
日程第2 議題2号 鶴岡市スポーツ推進審議会委員の委嘱について(非公開)
5. 報告事項
(1) 令和元年度学校教職員褒章選考結果について
(2) 令和2年鶴岡市成人式の実施状況について
(3) その他
6. 閉会

開 会（午後3時）

- 教育長 ただいまから1月の定例教育委員会を開会する。
はじめに市民憲章の唱和を行う。
(スポーツ課主幹が先唱し、市民憲章唱和)
- 教育長 本日の会議録署名委員は3番委員にお願いします。
それでは、日程第1議第1号鶴岡市立小学校及び中学校通学区域に関する規則の一部改正について、事務局より説明をお願いします。
- 学校教育課長 それでは、議第1号鶴岡市立小学校及び中学校通学区域に関する規則の一部改正について、ご説明申し上げます。
この度の改正は、大泉小学校区域より字塔の腰138番地3を削るというものである。井岡字塔の腰については平成14年4月の鶴岡市学区再編審議会からの諮問事項に係る答申において、朝暘第四小学校区として答申された地域である。しかしながら、字塔の腰138番地3のみが何らかの事情により大泉小学校区としてされていた世帯であり、現在も大泉小学校に指定されている。当時の世帯代表の方がその意向を示したものである。平成22年、同番地世帯からの就学児がおり、その際、保護者からは朝暘第四小学校への就学希望が出されたことから、その時は学区外通学の申請をしていただき許可したうえで、第四小学校へ入学している。当時、保護者からは世帯の代替わりもしており、今後は第四小学校区になることを希望するとの意向であったことから、以降は規則を改正し、同番地は第四小学校にすることを説明していたという経過があった。
しかしながら、その後、変更の手続きを行わないまま現在に至っていた。令和2年度に同世帯で二人目のお子様が進学することになり、就学時検診のご案内が大泉小指定で送付されたことから、同世帯からの問い合わせがあり、以前の経過についてご指摘をいただいたことにより、この度就学先通知発送以前にこの変更を行うものである。
なお、字塔の腰については現在第四小学区であり、大泉小学校区と指定されているのは同番地のみであるため、大泉小学校区域より字塔の腰138番地3を削除することについては、他の地域への影響はないものとする。
- 教育長 ただいまの議第1号について、質問、意見等はないか。
- 教育長 これは、当時、処理をし忘れたということか。
- 学校教育課長 その当時、学区外就学許可を6年間にわたって出していたことにより、翌年確認するという作業が漏れてしまい、現在に至ったという経過である。
- 教育長 それでは、議第1号については賛成の方は挙手をお願いします。
各委員 (全員挙手)

教育長 全員挙手にて議第1号は可決された。これからは、学区外就学という形ではなく、最初から四小ということでよいか。

学校教育課長 はい。

教育長 続いて、日程第2議第2号は人事案件のため、非公開とすることに異議はないか。

各委員 異議なし。

教育長 異議なしと認め、議第2号は非公開とさせていただく。
これより非公開の審議に入るため、傍聴の方は退席をお願いする。
(会議録は別記録とする)

教育長 予定された議事は以上である。
次に、報告事項に入る。令和元年度学校教職員褒賞選考結果について、事務局より説明をお願いする。

学校教育課指導主幹 令和元年度鶴岡市立学校教職員褒賞受賞者の報告をさせていただく。
昨日午前10時より教育委員室において、教職員褒賞選考委員会を開催した。今年度は9名の推薦があったが、資料2枚目の要綱、また、本市及び田川地区への貢献などに鑑み、資料の5名の受賞者を選考した。
受賞者は、藤島小学校の本間早苗栄養教諭、広瀬小学校の本間紀子教諭、鶴岡第一中学校の鈴木朋子養護教諭、鶴岡第三中学校の阿部美恵子事務総括、鶴岡第四中学校の本間由美教諭である。
受賞理由について、ご説明申し上げます。
藤島小学校の本間早苗栄養教諭は、各勤務校はもとより、勤務された地区内の小中学校において、栄養指導や食育に積極的に取り組んでこられたが、その際、地域の生産者組織と連携し、系統立てた学習の展開の実施等、地元の良さに気付かせるという視点をもった実践も展開している。またそうした実践を全国学校給食研究協議会や学校教育フォーラムで発表する等の活動を通して、食育や栄養教育を推進していただいた。
次に、広瀬小学校の本間紀子教諭は、教育に対する熱意と優れた指導技術を基盤とする学級担任力を発揮され、各勤務校において学習指導や生徒指導の中核となって活躍され、各校の学校教育目標の具現化に大きく貢献した。また、前任校では、新聞活用教育にも意欲的に取り組まれ、児童の社会的な視野の広がりや読解力、表現力育成のための取組みにおいて、特筆すべき実践を積み上げてこられた。
次に、鶴岡第一中学校の鈴木朋子養護教諭は、従来の保健室経営はもとより、生徒や保護者が抱える悩みや課題に対し、同僚や関係機関とも連携しながら適切に対応するなど、生徒指導における学校課題の解決に尽力した。勤務校における人材育成の面での貢献も大きく、また、田川地区の養護教諭の

リーダーの一人として、健康安全面から、地区全体の安定した学校づくりにも尽力していただいた。

次に、鶴岡第三中学校の阿部美恵子事務総括は、昨年度より所属校学区において実施されている事務連携・協働実施協議会の拠点校担当として、これまでの実績から得た豊富な知見などを活かし、学区内の小学校と連携し、きめ細やかな学習指導や教育の情報化における事務部門の強化の推進において、中心的な役割を果たされた。また、連携校のみならず、地区内の若手事務職員への指導助言等、人材育成の面でも大きく貢献した。

最後に、鶴岡第四中学校の本間由美教諭は、これまで長く学年主任を務め、学年担任団の円滑な人間関係を基盤とする学年経営により、学年で心配される問題等の未然防止、また適切な対応による問題の早期解決に努め、安定した学年経営に大きく貢献した。また英語教育の面では、真摯に研修を積み、生徒一人一人が活躍する授業を展開し、学級や生徒個々の実情に応じた指導を実践している。以上が、受賞理由である。

なお、褒賞授与式については、2月4日火曜日午前9時より、櫛引生涯学習センターホールを会場に、第5回市教委招集校長会議に先立って行う予定となっている。

- 教育長 この件について、何か質問はあるか。
- 1 番委員 61歳という受賞年齢はありえるのか。
- 学校教育課指導主幹 昨年度、教員を定年退職したが、今年度は再任用ということで現任校に勤務しているものである。
- 1 番委員 了解した。
- 教育長 一人職の方々にも光を当てなければならないと思う。もちろん教諭の人数は圧倒的に多いのだが、選考委員の方々も、各地域をリードしていて、この方なら大丈夫だと、皆さんからどうぞと言われるような実績のある方々を選ぼうということであった。それから、5番目の本間由美先生については、今年度再任用ということで、今後、再任用の方もやる気を持って働いていただきたいということも含め、このような形になった。毎年、再任用の方を選ぶというわけではないが、是非、この5名の方でお願いしたいと考えている。
- ほかにこの件について、質問等あるか。
- 3 番委員 これは、もう各教諭には伝達は終わったのか。
- 学校教育課指導主幹 本日、この場でのご報告後に、各校に通知するものである。
- 教育長 続いて、令和2年鶴岡市成人式の実施状況について、事務局より説明をお願いする。
- 社会教育課長 令和2年鶴岡市成人式実施状況についてご説明申し上げます。教育委員の皆様

様にはお忙しい中出席いただき、感謝申し上げます。

対象者が1,244人に対し、参加者が1,033人、全体での参加率が83.04%となっている。地区別の参加者数、参加率等、資料に記載しているが、朝日・温海地域が今回、近年では初めて90%を超えるという高い参加率になっている。羽黒地域は、昨年度は77%であったが、今回はほぼ90%近くという高い参加率となった。着付けの関係で少し苦しくなった女性があり、直していただいたおかげで復帰して無事式典を終えたが、ほかには幸い怪我や事故などはなく、体調を壊した方も特にいなかった。

天気が良かったこともあり、開会直前まで外で成人が談笑していて、その関係もあって、ホールへの入場に2～3分ほど遅れたとのことであったが、全く進行には影響がなかったと感じている。写真撮影の関係でも、撮影の順番で少しトラブルはあったが、概ね良好に進んだと思っている。

ただ、今回は3回目の開催にあたるが、やはり入り口の表示がなかなか分かりづらくて、談笑後、さあ会場に入ろうと思った時に男女違う方向に進んでしまい、戻るのに時間がかかってしまったという状況があったので、来年度以降は、案内の際に再度、さらに分かりやすい工夫が必要だと感じた。

教育長

この件について、質問はないか。

私は、非常にいい子たちだなと壇上から見ていた。ただ、女の子たちが少なかったのも、下のホールの方は6席、7席、続けて空いているスペースがあった。もっと詰めてもいいのかなと思った。上の座席の、ピンクの和服を着た男の子たちを下の座席に移ってもらえば、もっと華やかになったのかと思ったのだが。

でも、無事に終わって良かった。来年度も、より良い成人式になるように願います。

ほかに、報告事項はないか。

学校教育課指導主幹

二つ、ご報告させていただく。まずはじめに、出羽庄内国際村を会場に、昨年12月14日に開催された庄内中高一貫校の未来を語る会についてご報告する。

教育委員の皆様に加え、高校生も1名参加していただき、合計43名の方々よりご参加いただいた。

会の内容としては、我々が7月に行った佐賀視察について報告した後、東桜学館中学校、東桜学館高校のそれぞれの教頭先生に先進事例としてご紹介をいただき、その後、意見交換としてワークショップ形式で庄内中高一貫校に期待することとして意見交換を行ったものである。その際にいただいたご意見については、お手元の資料をご覧いただきたい。予定された時間ではグループで出された意見について十分共有することができなかったため、参加

された皆様からは延長してでも意見交換する場が欲しかったとのご意見をいただいたところである。この未来を語る会で出された意見については、すでに県教委に報告させていただいた。今後、具体的な検討を進める際にも繰り返し県の方には伝えてまいりたいと考えている。

教育長 14日に行われた庄内中高一貫校の未来を語る会の意見集約ということで報告していただいた。

なにか質問等あるか。では、何かあれば後ほどお願いします。

学校教育課指導主幹 続いて、学校の働き方改革に関する報告である。お手元には昨年末に発表された県の働き方改革プランと、本市の小中学校における働き方改革の主な取組みを一覧にしてお配りしている。

県の働き方プランは、国のガイドラインに合わせて、超過勤務時間について月45時間、年360時間を超えないことを基本方針としながら、現実的な実現には一定の時間を要することが想定されることから、一気に基本方針達成のために舵を切るのではなく、今後3年かけて、まずは複数月の超過勤務時間の平均が80時間を超える教員をゼロにするという目標を掲げている。

実際の手立てについては、県教委独自の取組みと市教委及び市立学校の取組みにも関わる内容が併記されていることから、市教委並び市立学校に対して、県が求めている働き方改革の具体的な取組みが見えるようなつくりになっている。今後、本市の現状を踏まえ、県のプランを参考にしながら学校の働き方改革を進めてまいりたいと考えている。

教育長 県の働き方改革プラン第I期ということで、県の教育委員会から昨年12月に出されたものと、本市の各校における働き方改革の主な取組みをまとめた一覧をお渡ししてあるので、見ていただいて何かご質問等あるか。

1番委員 各学校が働き方改革で多忙化解消をしようと、このように取り組んでいるということについて、異存はない。

ただ、この表には載っていない学校だが、ある学校でクラブ活動に外部の指導者が入ってきていて、発表会を年に一回していると。それを、子どもも保護者も大変楽しみにしていたが、働き方改革で外部の発表会に出ることが今年からできなくなったという話を聞いた。親御さんも練習していた子どもたちも毎年市民の方たちに発表できるのを楽しみにしていたのにどうしてかということがあったと。以前、行事の精選で、いろんな行事を削っていた時に、地域との連携的なものが最初に削られて、例えばスキー教室なども、その時にほとんどの学校で削られてしまった。スキー教室を復活させるのに、かなりの労力を使ったということがあるので、やっぱり地域を大事にする、地域を愛する学校として、鶴岡市は子どもたちに力をつけようとしていると

きに、大事なことが削られてしまうということがないようにしてほしいという要望である。それぞれの学校で多忙化解消のために、こういう形で整備したと十分理解はしているが、そういう声があったということである。

教育長

各校には特色ある学校経営の推進ということではお願いしつつ、働き方改革ということで様々な精選をお願いしており、矛盾するところもあるが、やはり軽重をつけていかなければならない。地域との連携というところで、本当に大事なものについては、今後ともなるべく継続していく。ただ、同じ形ではなく、これからも継続できるような形での、先生方の働き方改革に移行できるような形での今後の学校経営をお願いしたいということである。全くなくなったというところも、もしかしたらあるかもしれない。

ほかにご質問等あるか。令和4年度までに、80時間を超える教員ゼロを目指すという数値目標があるわけだが、やはり数字だけ掲示されても具体的な取組みをしていかないと、なかなか達成は難しいので、これは学校だけに任せるのではなくて、教育委員会としても今後取り組んでいかなければならない課題だと感じている。

ほかにご報告あればお願いする。

中央公民館長

お手元に4種類の講座のチラシを配布している。ぜひ、ご都合の合う方、もしくはお近くの方にPRをしていただければ幸いである。

教育長

ほかには報告はないか。なければ、これをもって1月の定例教育委員会を終了する。

閉 会（午後3時30分）